

わけである。

若しも斯かる早贄を發見された方があつたら是非御報告或は標本の御寄贈に
與り度い。

ユカタヤマシログモの兩性交際と卵囊

小 松 敏 宏

(長野縣諏訪郡上諏訪町南衣之渡)

Komatsu, Toshihiro — On the habit of *Scytodes thoracica*

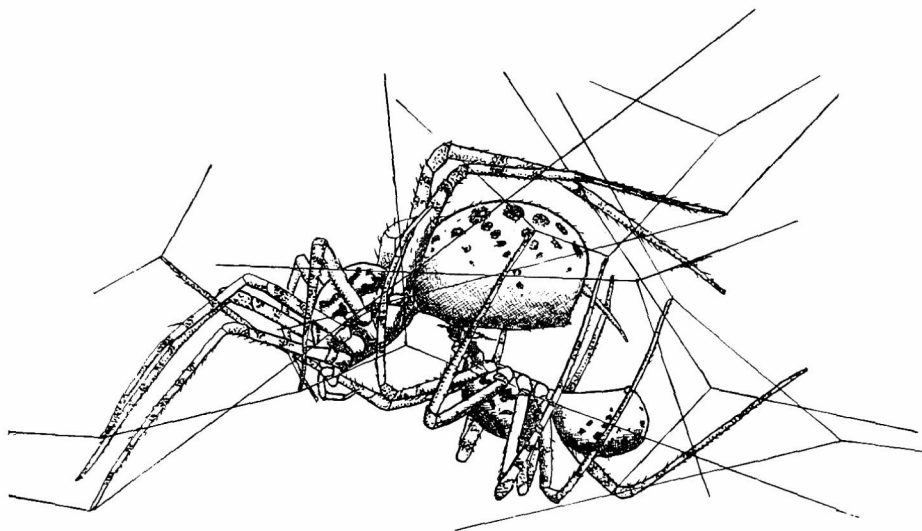
—— Mating and egg-sac keeping ——

Scytodes thoracica Latreille は廣き分布をもちながら、その隠遁好きな生活の故に長らく奇妙な習性が知られずに過されて來たものと思はれる。筆者は1938年以降再び表題の蜘蛛に接する機會を得たのを欣ぶものである。以下その兩性交際と卵囊につき記録したいと思ふ。尙ほ始に當り貴重な文獻の御貸與を得た岸田久吉先生に深謝の意を表す。

1. 兩性交際

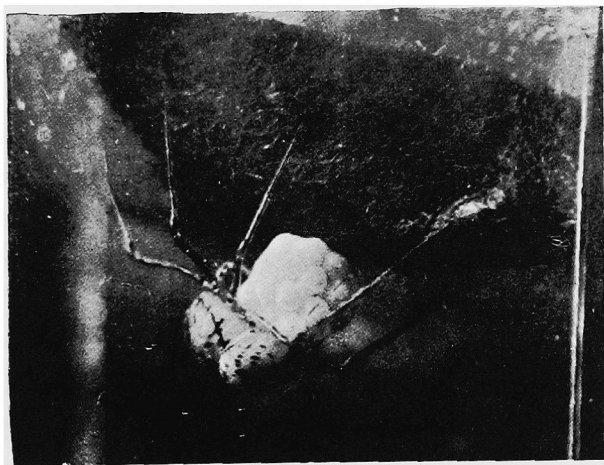
♂の出現時期は貧弱な採集記録(於長野縣)に依ると、最も早きは1931年6月5日；最も遅きは1939年9月16日であるから、随分長期間にわたつてゐる事を示してゐる。♂の觸肢は相當特色があるから兩性交際も面白からうと考へてゐたがそれ程ではなかつた。1939年8月28日硝子瓶内に放してあつた♀に♂を導入してみた。♂は何等の躊躇もなく♀の正面より進み、次第に潜入して第1圖の如き體型をもつて交互に觸肢を宛合ひ、約一分にして別れた。

2. 卵 囊



第1圖 ユカタヤマシログモの會合

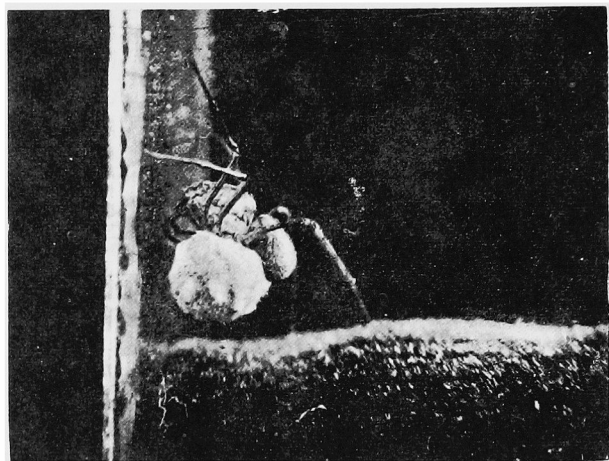
ユカタヤマシログモは夜間徘徊性で、平常は葉絲を引き歩きぬが、産卵の前



第2圖 卵囊を保持して居る♀ (1938年8月14日撮影)

は相當強靱な絲を張りまはす。時期は筆者の承知してゐる範圍では8月初旬から9月初旬にかけてである。形狀は第2圖の如く球狀で卵數は孵化した仔蛛を數へて36, 42, 35粒であつた。因に *Pholcus* 屬の如く僅

に卵塊へくづれぬ程度に絲がかけられたもので、比較するとやゝ絲量が多いかと思はれる。時日の経過と共にその保持方法の當然の歸結として絲量の増加をみる。色は先づ灰白色に近い。



第3圖 卵囊を保持して居る♀ (1938年9月4日撮影)

3. 卵囊の保持

卵囊の保持は McCook 氏 (1890) は *Pholcus* のそれに似て大顎と觸鬚によつて支へられてゐると紹介してゐるが、平常は *Dolomedes* 屬等に似て觸鬚と蛛疣によつて支へられてゐた (第2; 3圖参照)。蜘蛛はかゝる體型で保護の任に當り、食事を攝る様子もみられなかつた。又色々の刺戟を與へても卵囊は放さなかつた。

4. 孵 化

1938年8月13日夜産卵された卵は9月2日に卵囊内で孵化してゐる事が看取された (第3圖)。9月5日には卵囊は母蛛から離れ硝子容器の天井につるされ、仔蛛は卵囊から離れて一個所に集合してゐた。兩三日後は次第に散つて行き、♀は間もなく斃れた。
